

6 概要表等の記載要領◆

消防用設備等（特殊消防用設備等）計画書

① 年 月 日

届出者住所 _____ ③ _____

氏 名 _____

電 話 _____

代理人住所 _____

氏 名 _____

電 話 _____

所在地	④	市	区	町	丁目	番	号	
名称	⑤				主用途	⑥	政令区分	⑦
	建築面積	延べ面積	階数	敷地面積		工事種別		
申請	⑧ m ²	m ²	B	⑪ m ²		⑫		
既存	⑨ m ²	m ²	B	構造		収容人員		
計	⑩ m ²	m ²		⑬		⑭ 名 () 世帯		

消防用設備等又は特殊消防用設備等の概要 ⑮

消火設備	警報設備	避難設備	その他	特殊消防用設備等

棟別の概要 ⑯

	建築面積	延べ面積	階数	用途	消防用設備等又は特殊消防用設備等
1	m ²	m ²	B	⑰	⑱
2	m ²	m ²	B		
3	m ²	m ²	B		

受付欄	経過及び備考欄
⑲	⑳

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。 審査済欄

- 2 次の図書を添付すること。
- (1) 附近見取図、配置図、面積計算書 (2) 各階平面図
 (3) 立面図、断面図、炬計図 (4) はり及び天井伏図
 (5) 建具配置図及び建具表 (6) 室内仕上表
 (7) 空調及び衛生設備図 (8) 消防用設備等の計画図

- ① 消防機関へ提出する日を記入する。
- ② 当該防火対象物の所在地の所轄消防長（消防本部を置かない市町村は、当該市町村長。）又は消防署長。
- ③ 建築主及び代理者の住所、氏名、電話を記入する。
- ④ 当該防火対象物の所在地を記入する。
- ⑤ 当該防火対象物の名称（決定していない場合は、仮称でもよい。）を記入する。
- ⑥ 当該防火対象物の主たる用途を記入する。……（例）喫茶店
- ⑦ 令別表第1の該当する用途を記入する。……（例）(3)項ロ
- ⑧ 消防用設備等（特殊消防用設備等）が設置される棟の建築面積、延べ面積及び階数を記入する。
- ⑨ ⑧と同一棟となる既存棟がある場合は、その棟の建築面積、延べ面積及び

階数を記入する。

- ⑩ ⑧のみの場合は、その数値を記入し、⑨がある場合は、⑧と⑨の合計を記入する。この場合、階数は高い方を記入する。
- ⑪ 敷地面積を記入する。
- ⑫ 新築、増築、改築、模様替え及び既存改修のいずれかを記入する。
- ⑬ 建築物の構造を記入する。
- ⑭ 規則第 1 条の 3 により算出した人員又は現収容人員を記入する。
- ⑮ 設置する消防用設備等（特殊消防用設備等）の種類をそれぞれの区分欄に記入する。この場合、既存のものは（ ）書きとする。
- ⑯ ⑧に掲げた防火対象物が複数となる場合は、棟数に⑧の例により記入し、4 棟以上となる場合は別紙を添付する。
- ⑰ 敷地内全体の用途ではなく、それぞれの棟ごとに令別表第 1 の該当する用途を記入する。
- ⑱ 棟ごとに設置される消防用設備等（特殊消防用設備等）の種類を記入する。
- ⑲⑳ 消防機関が記入するので空欄とする。

消防用設備等免除申請書

① 年 月 日

② 股

申請者住所 ③
氏 名

次の防火対象物は以下の構造等であるため、消防法施行令第 32 条・火災予防条例の規定による特例の適用をお願いします。

所在地 ④		市 区		番 号		電 話	
部		町 丁目		番 地		敷 地 面 積	
名 称 ⑤		用 途 ⑥		政 令 区 分 ⑦			
	建 築 面 積	延 べ 面 積	階 数	敷 地 面 積	工 事 種 別		
申 請	⑧ m ²	m ²		⑩ m ²	⑫		
既 存	⑨ m ²	m ²		構 造	収 容 人 員		
計	⑩ m ²	m ²		⑬	⑭ 名 () 世帯		
免除申請補助用設備等の種類							
消 火 設 備							
警 報 設 備 ⑮							
通 信 設 備							
そ の 他							
免除申請理由 ⑯							
受付欄 ⑰				経過欄 ⑱			

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。
2 次の図書を添付すること。
(1) 附近見取図、配置図、面積計算書 (2) 各階平面図 (3) 立面図、断面図、組計図
(4) はり及び天井伏図 (5) 建具配置図及び建具表 (6) 案内仕上表 (7) 空調及び衛生設備図
(8) その他必要な図書

- ①～⑭ 消防用設備等（特殊消防用設備等）計画書に準じて記入する。
- ⑮ 免除を受けようとする消防用設備等の種類（一部免除の場合はその旨）を記入する。
 （記載例） 自動火災報知設備（金庫室の感知器）
- ⑯ 免除申請理由を明確に記載する。
 （記載例） 金庫室であり、その開口部に特定防火設備である防火戸を設けている。
- ⑰⑱ 消防機関が記入するので空欄とする。

防火対象物
製造所等 } の概要表

建 築 物 の 概 要						
名 称	①		所 在 地	②		
用 途	③		階 数 (階 層)	地 上 階	地 下 階	塔 屋 階
主要構造: ④ 耐火構造・準耐火構造・その他 ()				延 べ 面 積	m ²	
階 別	床 面 積 (m ²)	用途又は室名	構 造	内 装 仕 上 げ		特 記 事 項
				天 井	壁	
		⑤	⑥	⑦		⑧
そ の 他	⑨					

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
2 消防用設備等の設置に係る階について、各階ごとに記入すること。

- ① 当該防火対象物の名称（決定していない場合は、仮称でもよい。）を記入する。
- ② 当該防火対象物の所在地を記入する。
- ③ 令別表第1の該当する用途を記入する…（例） (3)項ロ
- ④ 該当するものを○で囲み、その他の（ ）内は建基法上の構造を記入する。
- ⑤ 階の代表的な用途又は室名を記入する。
- ⑥ 当該部分の構造（RC造等）を記入する。
- ⑦ 不燃材料，準不燃材料，難燃材料の区分で記入し，室内仕上表が添付されるときは，「別添仕上表参照」と記入する。
- ⑧ 無窓階の有無，その他必要事項を記入する。
- ⑨ 消防用設備等の設置についての取扱い（共同住宅の特例，令第8条区画，規則第13条区画等）について記入する。

屋内消火栓設備・屋外消火栓設備 } の概要表 ①
水噴霧消火設備・泡消火設備

水 源	専用・兼用	種 別	地下ピット・床置き・その他 ()			有効水量 (当該設備用)	② m ³	
加 圧 送 水 装 置	ポンプ方式	ポンプ、電動機	専用・兼用	口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力				
			電圧 V	φ × L/min × m × kw				
	ユニット型	呼水装置	有・無	有効容量	L	滅水警報の表示場所		
			起動用圧力タンク	有・無	容量	L	ポンプ設置場所	
	高架水槽方式	有効落差 ③ m	圧力水槽方式	加圧圧力	④ MPa	内容積	m ³	
屋内消火栓	1号	個	2号	個	易操作性1号	個	合 計	
屋外消火栓	個	ホース	長さ	m	本	表示灯	専用・兼用	
噴霧ヘッド	標準放射量	L/min		標準放射圧力	MPa	放射角度 °		
泡放出口	フォームヘッド	個・フォームウォーターースプリンクラーヘッド						
	高発泡用泡放出口	個・泡ノズル 個・その他 ()						
泡消火設備の方式	固定式 (全域・局所) ・ 移動式		高発泡・低発泡	一斉開放弁	A 個			
泡消火薬 剤	種別	たん白泡・合成界面活性剤・水成膜泡		貯蔵量	L	希釈容量濃度	%	
	混合方式	差圧混合方式・管路混合方式・圧入混合方式・ポンプ混合方式・その他 ()						
放 水 (出・射) 区 域	区域数	最大	放水 (出・射) 面積	m ²	放水 (出・射) 量	L/min	放出体積 m ³	
		最小	放水 (出・射) 面積	m ²	放水 (出・射) 量	L/min	放出体積 m ³	
起動装置	ポンプ起動方式	自火報発信機・専用スイッチ・起動用水圧閉鎖装置・流水検知装置・その他						
	起動感知方式	スプリンクラーヘッド・感知器・その他 ()						手動式開放弁
自動警報装置	流水検知装置	A	個	圧力検知装置	個	その他		
配 立 上 が り 管 口 径	A	材質	⑤			専用・兼用 (設備)		
管 止 水 弁	⑤	逆止弁	⑤			その他 (⑤)		
プ ー ス ポ ン プ タ ン プ	ポンプ、電動機	口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力						補助水槽
		φ × L/min × m × kw						m ³
		φ × L/min × m × kw						m ³
電 源	常用電源	単相・三相 AC V	電灯回路・動力回路					
		DC V AH	充電方式	トリクル・浮動	使用別	専用・共用		
	非常電源	自家発電設備	単相・三相 AC・DC V	kVA	使用別	専用・共用		
		蓄電池設備	DC V AH	充電方式	トリクル・浮動	使用別	専用・共用	
	非常電源専用受電設備	単相・三相 AC V						
配 線	常用電源回路	露出ケーブル・電線管露出・電線管埋設・その他 ()						
	非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線管埋設・その他 ()						
	警 報 回 路	耐火電線・電線管露出・電線管埋設・その他 ()						
	そ の 他 の 回 路	IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管埋設・その他 ()						
そ の 他	⑥							

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

- ① 設備ごとに記入する。
- ② 有効水量を記入する。なお、衛生設備その他のものと兼用されているものは、消火に使用可能な有効水量を記入する。
- ③ 水槽の下端からホース接続口までの垂直距離を記入する。
- ④ 圧力計の指示値を記入する。
- ⑤ JIS番号か合成樹脂管等（評定番号）を記入する。
- ⑥ 耐火電線、耐熱電線の接続工法が標準工法であるものについては工法名その他の特記事項を記入する。（送水口を設ける水噴霧消火設備及び泡消火設備は、設置位置、地盤面からの高さを記入する。）

スプリンクラー設備の概要表

水源	専用・兼用	地下ピット・床置き・その他 ()		有効水量 (当該設備用)		① m ³		
加圧送水装置	ポンプ方式	ポンプ、電動機	専用・兼用	電圧	V	口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力	φ × L/min × m × kw	
		呼水装置	有・無	有効容量	L	減水警報の表示場所		
	ユニット型	起動用圧力タンク	有・無	容量	L	ポンプ設置場所		
高架水槽方式	有効落差	② m	圧力水槽方式	加圧圧力	③ MPa	内容積	m ³	
スプリンクラーヘッド等	閉鎖型 (高感度)	(温度 °C 個)・(温度 °C 個)	減圧弁					
	閉鎖型 (標準型)	(温度 °C 個)・(温度 °C 個)	有・無					
	小区画型	(温度 °C 個)・(温度 °C 個)						
	開放型ヘッド	(温度 °C 個)・補助散水栓 個						
設備の方式	湿式・乾式・予作動式	自動警報装置	流水検知装置	A 個	圧力検知装置	個		
ポンプ起動方式	起動用水圧閉鎖装置・流水検知装置・その他 ()					送水口 (双口型)	個	
起動感知方式	スプリンクラーヘッド・感知器・その他 ()					手動式開放弁	④	
一斉開放弁	A 個		電動弁等	A 個				
配管	立上がり管口径	A	材質	⑤		専用・兼用 ()	設備	
管弁類	止水弁	⑤	逆止弁	⑤	その他 ()			
放水型ヘッド	固定式 ()	個	可動式 ()	個	一斉開放弁	A 個		
加圧送水装置	放水型ヘッド用ポンプ	ポンプ、電動機	専用・兼用	電圧	V	口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力	φ × L/min × m × kw	
		呼水装置	有・無	有効容量	L	減水警報の表示場所		
	ユニット型	起動用圧力タンク	有・無	容量	L	ポンプ設置場所		
起動感知方式	感知器・走査型の感知器・その他 ()							
配管	立上がり管口径	A	材質	⑤		専用・兼用 ()	⑤ 設備	
管弁類	止水弁	⑤	逆止弁	⑤	その他 ()			
ブースタポンプ	ポンプ、電動機	口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力			補助水槽			
		φ × L/min × m × kw			m ³			
	補助加圧装置	ポンプ、電動機	口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力			補助水槽		
		φ × L/min × m × kw			m ³			
電源	常用電源	単相・三相 AC V	電灯回路・動力回路					
		DC V AH	充電方式	トリクル・浮動	使用別	専用・共用		
	非常電源	自家発電設備	単相・三相 AC・DC V kVA	使用別	専用・共用			
		蓄電池設備	DC V AH	充電方式	トリクル・浮動	使用別	専用・共用	
	非常電源専用受電設備	単相・三相 AC V						
配線	常用電源回路	露出ケーブル、電線管露出、電線管埋設、その他 ()						
	非常電源回路	耐火電線、電線管露出、電線管埋設、その他 ()						
	警報回路	耐火電線、電線管露出、電線管埋設、その他 ()						
	その他の回路	IV電線、露出ケーブル、電線管露出、電線管埋設、その他 ()						
その他	⑥							

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
 2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

- ① 有効水量を記入する。なお、衛生設備その他のものと兼用されているものは、消火に使用可能な有効水量を記入する。
- ② 水槽の下端からスプリンクラーヘッドまでの垂直距離を記入する。
- ③ 圧力計の指示値を記入する。
- ④ 設置位置、地盤面からの高さを記入する。
- ⑤ JIS番号か合成樹脂管等（評定番号）を記入する。
- ⑥ 耐火電線、耐熱電線の接続工法が標準工法であるものについては工法名その他の特記事項を記入する。

不活性ガス消火設備・ハロゲン化物消火設備 } の概要表 ①
 粉末消火設備

放出方式	全域放出方式・局所放出方式・移動式		制御盤設置位置							
貯蔵容器等	蓄圧(高圧式・低圧式・その他())・加圧									
起動方式	手動電気式・手動ガス式・自動式									
音響警報	音声・サイレン・音声+サイレン・ブザー・その他()									
放出表示灯	設置個数	箇所	回転灯等	設置個数	箇所 赤色表示灯 専用(2) 兼用					
消火剤	種別	③		設置場所						
	容器別数量	kg × 容器本数	本	本 = 総数量 kg						
加圧用ガス	窒素ガス・二酸化炭素	数量	m ³ ・L・kg	容器本数	本					
配管	管	④								
	弁類	選択弁・放出弁	減圧弁	閉止弁	その他()					
放出区域	区域数	最大	放出面積 m ²	放出率 kg/s	放出体積 m ³					
	区域	最小	放出面積 m ²	放出率 kg/s	放出体積 m ³					
移動式消火設備の数	箇所									
電源	常用電源	単相・三相 AC V	電灯回路・動力回路							
		DC V AH	充電方式	トリクル・浮動	使用別 専用・共用					
	非常電源	自家発電設備 単相・三相 AC・DC V kVA	使用別	専用・共用						
配線	蓄電池設備	DC V AH	充電方式	トリクル・浮動	使用別 専用・共用					
	常用電源回路	露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他()								
	非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線管理設・その他()								
	警報回路	耐火電線・電線管露出・電線管理設・その他()								
	IV電線	露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他()								
他の	放出区域名	階	面積	体積	換気装置	換気装置	排出措置	消火剤量	ヘッド数	
	1	⑤	m ²	m ³	有(閉)・無	⑥	有(停)・無	機械・自然	kg	個
	2		m ²	m ³	有(閉)・無		有(停)・無	機械・自然	kg	個
	3		m ²	m ³	有(閉)・無		有(停)・無	機械・自然	kg	個
	4		m ²	m ³	有(閉)・無		有(停)・無	機械・自然	kg	個
	5		m ²	m ³	有(閉)・無		有(停)・無	機械・自然	kg	個
	6		m ²	m ³	有(閉)・無		有(停)・無	機械・自然	kg	個
	7		m ²	m ³	有(閉)・無		有(停)・無	機械・自然	kg	個
⑦										

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
 2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

- ① 設備ごとに記入する。
- ② 移動式に設けられているものに記入する。
- ③ 消火薬剤の種別を記入する。…(例) 粉末(第3種), ハロン(1301)
- ④ JIS番号等(構造・材質)を記入する。
- ⑤ 放出区域の室名を記入する。…(例) 通信機器室
- ⑥ () は放出区域内に、開口部、換気装置がある場合、放出時に閉止又は停止する場合○で囲む。
- ⑦ 空気呼吸器の設置状況及び耐火電線、耐熱電線の接続工法が標準工法であるものについての工法名その他の特記事項を記入する。

動力消防ポンプ設備概要表

				(棟別) ① 棟	
防 火 物 質 規 模	構 造	階 数	建築面積	用途	
	② 火 災 防 火 の 他	地上 階 ③ 地下 階	④ m ² 延べ面積 ⑤ m ²	⑥ 1, 2 階の床面積の合計 ⑦ m ²	
項 目	名 称 ・ 材 質 ・ 寸 法 等				
ポンプ	⑧ 消防ポンプ自動車、可搬消防ポンプ				
ポ ン プ	型 式				
	級 別	級			
	圧 力	MPa	放水量	l/min	
⑨	設置位置	⑩			
ホ ー ス	材質	⑪ 内径	長さ	本数	本
筒 先	材質	⑫ 筒先口径		本数	本
水 源	種 類	⑬ 自下式・半地下式・揚水式・その他 ()			
	有効水量	⑭ m ³	m ³	m ³	m ³
	設置個数	⑮ 個			
設計、施工業者氏名					
⑯					
備 考					
⑰					

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

- ① 概要表は棟別を原則とし、複数の棟がある場合は、その棟ごとの名称を記入する。
- ② 該当する構造を○で囲む。
- ③ 地上、地下の階数を記入する。
- ④ 建築面積を記入する。
- ⑤ 延べ面積を記入する。
- ⑥ 令別表第 1 の該当する用途を記入する。
- ⑦ 1, 2 階の床面積の合計を記入する。
- ⑧ 該当するポンプを○で囲む。
- ⑨ 設置するポンプの型式、級別、ポンプ圧力及び放水量を記入する。
- ⑩ ポンプの設置場所を記入する。
- ⑪⑫ 設置するホース、筒先の材質、口径、長さ及び収納（積載する場合も含む。）しているホース、ノズル本数を記入する。

- ⑬ 水源の種類で該当するものを○で囲み、その他は具体的な方式を記入する。
なお、複数の水源を有し、種類が異なる場合はその他の欄に記入する。
- ⑭ 有効水量は常時消防用水として使用できる水量を記入し、複数の場合はそれぞれの水量を記入する。
- ⑮ 設置個数は同一敷地内に設置する個数を記入する。
- ⑯ 設計、施工業者氏名を記入する。未定の場合は、未定と記入する。
- ⑰ 消防機関が記入するので空欄とする。

自動火災報知設備の概要表 (その1)

機 種		蓄積	自動	遠隔	種別	個数
感 知 器	式 型 ()					
	型式番号 感 第 号 製造会社名					
	式 型 ()					
	型式番号 感 第 号 製造会社名					
	式 型 ()					
	型式番号 感 第 号 製造会社名					
	式 型 ()					
	型式番号 感 第 号 製造会社名					
	式 型 ()					
	型式番号 感 第 号 製造会社名					
	式 型 ()					
	型式番号 感 第 号 製造会社名					
	式 型 ()					
	型式番号 感 第 号 製造会社名					
	式 型 ()					
	型式番号 感 第 号 製造会社名					
発 信 機	屋内型 型 級 個 型式番号 案第 号 製造会社名					
	屋外型 型 級 個 型式番号 案第 号 製造会社名					
表示灯	V 個					
中 継 器	種 別	回線数	電 源 供 給 方 式		設置台数	
	自動・遠隔・アナログ・その他 (型式番号 中第 号)		専用 (予備電源 V AID)・受信機・その他 ()			
	自動・遠隔・アナログ・その他 (型式番号 中第 号)		専用 (予備電源 V AID)・受信機・その他 ()			
	自動・遠隔・アナログ・その他 (型式番号 中第 号)		専用 (予備電源 V AID)・受信機・その他 ()			
	自動・遠隔・アナログ・その他 (型式番号 中第 号)		専用 (予備電源 ② AID)・受信機・その他 ()			
	自動・遠隔・アナログ・その他 (型式番号 中第 号)		専用 (予備電源 V AID)・受信機・その他 ()			
	自動・遠隔・アナログ・その他 (型式番号 中第 号)		専用 (予備電源 V AID)・受信機・その他 ()			
	自動・遠隔・アナログ・その他 (型式番号 中第 号)		専用 (予備電源 V AID)・受信機・その他 ()			
	自動・遠隔・アナログ・その他 (型式番号 中第 号)		専用 (予備電源 V AID)・受信機・その他 ()			
	自動・遠隔・アナログ・その他 (型式番号 中第 号)		専用 (予備電源 V AID)・受信機・その他 ()			
製 造 会 社 名						

(その2)

受信機	蓄積式・二信号式・アナログ式・自動試験機能付き・遠隔試験機能付き・その他 ()			
	P・GP型 ③	/ 回線	R・GR型 自火報点数 ③ 点	その他 () 点数 ③ 点 予備点数 ③ 点
表示器	予備電源 (DC V AH)	設置場所	階 室	
	型式番号 受第 号	製造会社名		
電 源	④	/ 回線	台 自火報点数 ④ 点	その他点数 ④ 点 予備点数 ④ 点
		/ 回線	台 自火報点数 ④ 点	その他点数 ④ 点 予備点数 ④ 点
音 響 装 置	常用電源	単相・三相 AC V 非常電源専用受電設備回路・電灯回路・動力回路 DC V AH 充電方式 (トリクル・浮動) 使用別 (専用・共用 ())		
	非常電源	非常電源専用受電設備 単相・三相 AC V 蓄電池設備 DC V AH 充電方式 (トリクル・浮動) 使用別 (専用・共用 ())		
音 響 装 置	主音響装置 (消音しているものも含く)	ベル・サイレン・電子ブザー・音声合成・その他 () 径 mm 定格DC V mA 個		
	地区音響装置	ベル・サイレン・電子ブザー・スピーカー・その他 () 径 mm 定格DC V mA 個 dB		
音 声 切 替 装 置	常用電源	単相 AC V 非常電源専用受電設備回路・電灯回路		
	非常電源	蓄電池設備 DC V AH 充電方式 (トリクル・浮動)		
配 線	常用電源回路	ケーブル露出・電線管露出・電線管理設・その他 ()		
	非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線管理設・その他 ()		
	警報回路	耐熱電線・電線管露出・電線管理設・その他 ()		
	その他回路	IV電線・ケーブル露出・電線管露出・電線管理設・その他 ()		
関 連 設 備	消火設備 () ・ 火災通報装置・誘導灯信号装置			
	非常警報設備・放送設備・その他 ()			
工 事 者 区 分	電源工事			
	配線工事			
	配線工事	⑤		
	配線工事			
	機器の取付け工事			
その他	⑥			

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
 2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。
 3 感知器記入欄の () 内は、その機能又は性能を記入すること。
 4 関連設備の消火設備 () 内は、その設備等の種類を記入すること。

- ① 感知器の機種別、蓄積機能、自動試験機能、遠隔試験機能の有無、感度種別等について記入する。
- ② 中継器の種別、回線数、蓄電池容量（銘板に示されているAH）等を記入する。
- ③ 受信機のうちP型については、使用している回線数（使用回線数／全回線数）を、R型については、アドレス表示点数を記入する。
- ④ 使用している回線数（使用回線数／全回線数）とアドレス表示点数を記入する。
- ⑤ 該当する工事を施工する会社名を記入する。
- ⑥ 耐火電線、耐熱電線の接続工法が標準工法であるものについての工法名、その他の特記事項を記入する。

ガス漏れ火災警報設備の概要表

検知器	検知対象ガス	空気より軽い都市ガス	空気より重い都市ガス	その他のもの
	個数	個	個	個
中継器	回線	個	電源 専用方法 受信機供給方法 その他の方法	予備電源 V ① AH
受信機	区分	型	回線数	② / 回線
	附属装置		附属回路	
	予備電源	V ① AH	設置場所	階 ③
電源	常用電源	単相・三相 AC	V	電灯回路・動力回路
		DC V AH	充電方法	トリクル・浮動 使用別 専用・共用
	非常電源	蓄電池設備 DC V AH	充電方法	トリクル・浮動 使用別 専用・共用
		インバーター出力	VA	
	自家発電設備	単相・三相 AC	V kVA	
警報装置	音声警報装置	増幅器出力	スピーカー個数	非常用放送設備と兼用 定格 W 個 有・無
	ガス漏れ表示灯	中継器附属のもの		その他のもの 個 個
	検知区域警報装置	検知器附属のもの		その他のもの 個 個
配線	常用電源回路	露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他 ()		
	非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線管理設・その他 ()		
	検知器回路	耐熱電線・電線管露出・電線管理設・その他 ()		
	警報装置回路	耐熱電線・電線管露出・電線管理設・その他 ()		
	その他の回路	IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他 ()		
工事者区分	電源及び配線	④	機器取付	④
製造者名	受信機製造会社		型式番号	
	中継器製造会社		型式番号	
	検知器製造会社			
その他	⑤			

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

- ① 蓄電池容量（銘板に示されているAH）を記入する。
- ② 使用している回線数（使用回線数／全回線数）を記入する。
- ③ 室名を記入する。
- ④ 該当する工事を施工する会社名を記入する。
- ⑤ 耐火電線、耐熱電線の接続工法が標準工法であるものについての工法名、その他の特記事項を記入する。

漏電火災警報器概要表

(棟別) ① 棟

防火対象物の概要	構造	階数	建築面積	用途		
	耐火・準耐火 防火・その他 (②)	地上 階 ③ 地下 階	④ m ²	⑥		
			延べ面積	最大負荷電流の合計		
			⑤ m ²	⑦ A		
機	外壁	壁	床	天井		
	間柱	間柱	根太	天井		
	下地	下地	下地	野縁		
	鉄網 入り・なし	鉄網 入り・なし	鉄網 入り・なし	鉄網 入り・なし		
受 信 機 等 の 流 器 要	製造会社名	型式	消防庁検定型式番号	級別		
	⑨			級		
	⑩	種別	屋内型 互換性型	屋外型 非互換性型		
	⑪	設置位置				
	⑫	遮断機構	有	無		
	⑬	設置工事	有	無		
	⑭	検出漏えい電流設定値	⑭ mA	電源の定格電圧	V	
	⑮	種別	屋内型	屋外型		
	⑯	構造種別	貫通型	分割型		
	⑰	設置位置				
	⑱	互換性の有無	互換性型	非互換性型		
	⑲	警戒電路の種別	屋内電路 第2種接地線	屋外電路		
		警戒電路の定格電流	⑳ mA以下	警戒電路の定格電圧	㉑ V以上	
		警戒電路の周波数	㉒ ヘルツ	定格電流	㉓ A	
	㉔	保護カバーの接地	㉔	有	無	
㉕	種別		ベル・サイレン・ブザー	ヶ所		
㉖	設置位置					
設計、施工業者氏名						
⑰						
備考						
⑱						

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

- ① 概要表は棟別を原則とし、複数の棟がある場合は、その棟ごとの名称を記入する。
- ② ネオン管灯設備を設置する場合は、その他の()内に設備名を記入する。
- ③～⑥ 動力消防ポンプ設備概要表に準ずる。
- ⑦ 建築物又はネオン管灯設備に係る最大負荷電流の合計数値を記入する。ただし、共同住宅等で最大負荷電流がとれないものは、ブレーカーの合計容量を記入する。
- ⑧ 間柱、根太、天井、下地及び野縁に使用する材料名を記入し、鉄網は該当するものを○で囲む。なお、ネオン管灯設備を設置する場合は省略する。
- ⑨ 製造会社名、型式を記入する。
- ⑩ 該当するものを○で囲む。
- ⑪ 受信機の設置場所を記入する。
- ⑫⑬ 該当するものを○で囲む。
- ⑭ 電流設定値及び定格電圧値を記入する。

- ⑮⑯ 該当するものを○で囲む。
- ⑰ 変流器の設置場所を記入する。
- ⑱⑲ 該当するものを○で囲む。
- ⑳～㉓ 警戒電路の定格電流，定格電圧，周波数及び変流器の定格電流値を記入する。
- ㉔ 該当するものを○で囲む。
- ㉕ 該当するものを○で囲み，個数を記入する。
- ㉖ 音響装置の設置場所を記入する。
- ㉗㉘ 動力消防ポンプ設備概要表⑯⑰に準ずる。

消防機関へ通報する火災報知設備の概要表

火 災 通 報 装 置	品名・型式		型式番号		
	製造会社名				
	設置場所	① 階 室			
	遠隔起動装置	設置場所	電話機付 (台)	(1) (2) (3)	
				(4) (5) (6)	②
		設置場所	電話機なし (台)	(1) (2) (3)	
				(4) (5) (6)	
	選択信号送出方式	DP方式 (10PPS、20PPS) ・ PB方式 ③			
	自動火災報知設備連動	有 ・ 無			
	常用電源	AC	V		
予備電源	DC	V	AH		
M型発信機	設置場所	基			
工事者区分	電源工事				
	配線工事				
	機器の取付工事				
	工事担当者(電話工事)	氏名		資格	
その他	④				

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
 2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。
 3 工事者区分欄には、設備会社名等を記入すること。

- ① 本体の設置場所を具体的に記入する。
- ② 遠隔起動装置の設置場所を具体的に記入する。
- ③ 該当するものを○で囲む。
- ④ 通報メッセージの内容を具体的に記入する。

非常警報設備概要表

(棟別 ① 棟)

防対象 火物 規模	構造	階数	建築面積 ④ m ²	用途 ⑥			
	耐震 等級 七	地上 ③ 階 地下 階	延べ面積 ⑤ m ²	収容人員 ⑦ 名 (世帯)			
起動装置の設置場所							
区分 階別	用途	場所・位置 (床面からの高さ)	設置 個数	区分 階別	用途	場所・位置 (床面からの高さ)	設置 個数
階	⑧		個	階			個
階			個	階			個
階			個	階			個
階			個	階			個
階			個	階			個
階			個	階			個
非常警報設備の種類 ⑨			一体型・複合装置型	鳴動区分	一斉・区分 ()		
電 源 ⑩	非常電源専用受電設備		AC	V			
	種 別	容量	充電方式	充電電流			
	蓄電池	別置・内蔵 アルカリ 鉛	AH H	トリクル 浮動	mA		
配 線 ⑪		施工方法	使用電線		太さ		
	非常電源				mm		
	常用電路				mm		
	警報回路 操作回路				mm		
	表示灯回路				mm		
設計、施工業者氏名							
⑫							
備考							
⑬							

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

- ①～⑥ 動力消防ポンプ設備概要表に準ずる。
- ⑦ 消防用設備等（特殊消防用設備等）計画書⑭に準ずる。
- ⑧ 起動装置の設置場所、取付位置の高さ、設置個数及び各階の用途を記入する。
- ⑨ 非常警報設備の種類及び鳴動方式は該当するものを○で囲み、区分鳴動の場合は鳴動方式を記入する。
- ⑩ 非常電源専用受電設備の場合は電圧値を記入し、蓄電池設備の場合は蓄電容量及び充電電流の値を記入し、種別及び充電方式は該当するものを○で囲む。
- ⑪ 配線の施工方法、使用電線及び使用電線の太さを記入する。
- ⑫⑬ 動力消防ポンプ設備概要表⑯⑰に準ずる。

非常警報設備（放送）概要表

(種別) ① 棟

防火 対象物 規模	構造	階数	建築面積		用途	
	耐②火 準耐火 その他	地上階 ③ 地下階	④ m ²		⑥	
			延べ面積		収容人員	
			⑤ m ²		⑦ 名 (世帯)	
使用状況 専有設備 ⑧ 共用設備 ()						
増幅器 ⑨	型式	方式	電源	消費電力	出力	
		トランジスター 真空管	AC100V DC24V	AC時 VA DC時 W	定格 W 最大 W	
操作⑩ 放送区分 一斉・階別等選択 回線数 / 遠隔操作器 有無 ()						
⑪ 防災センター	設置場所	区画構造	内装	床面積 m ²		
	開口部	特定防火設備 防火設備	m ² m ²	ヶ所 ヶ所	常時閉鎖・煙連動 常時閉鎖・煙連動	
起動装置 ⑫ 押ボタン・非常電話・インターホン 個 感知器 個 発信機 個						
⑬ スピーカー	配線方式	型名	型式	定格入力	施工方法	
	2線式		L級 個	W 個 W 個	壁掛 個	
	3線式		M級 個 S級 個	W 個 W 個 W 個 W 個	埋込 個 その他 個	
電源	常用電源	AC-⑭V 専用・兼用 ()				
	⑮ 非常電源	種別	容量	電圧	充電方式	充電電流
		ニッケル カドミウム 鉛	時間率 All	DC V	トリクル 浮動 その他	mA
⑯ 配線	電源回路	施工方法		使用電線	太さ mm	
	警報回路				mm	
設計、施工業者氏名 ⑰						
備考 ⑱						

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

- ①～⑥ 動力消防ポンプ設備概要表に準ずる。
- ⑦ 消防用設備等（特殊消防用設備等）計画書⑭に準ずる。
- ⑧ 専用、共用の別を○で囲み、共用の場合は設備名を（ ）内に記入する。
- ⑨ 設置する増幅器の型式、消費電力、出力はその値を記入し、方式は該当するものを○で囲む。
- ⑩ 放送区分は該当するものを○で囲み、回線数（使用回線数／全回線数）を記入し、遠隔操作器の有無を○で囲み、有の場合は設置場所を記入する。
- ⑪ 内装は仕上げ、下地共記入し、開口部は特定防火設備である防火戸又は防火戸を○で囲み、その大きさ（開口部が2以上ある場合は合算する。）と箇所数を記入し、閉鎖方式は該当するものを○で囲む。
- ⑫ 該当するものを○で囲み、設置個数を記入する。
- ⑬ 配線方式は該当するものを○で囲み、型名を記入し、型式、施工方法は設置するスピーカー数を記入し、定格入力は容量及び個数を記入する。ただし、既設は（ ）書きで記入する。

- ⑭ 常用電源は電圧値を記入し、専用、兼用の別を○で囲み、兼用する場合はその設備名を（ ）内に記入する。
- ⑮ 非常電源の種別及び充電方式は該当するものを○で囲み、蓄電容量、放電電圧、充電電流は各値を記入する。
- ⑯ 配線は施工方法、使用電線及び使用電線の太さを記入する。
- ⑰⑱ 動力消防ポンプ設備概要表に⑯⑰準ずる。

総合操作盤の概要表

品名・型式			
音響装置	<input type="checkbox"/> ベル・ <input type="checkbox"/> ブザー・ <input type="checkbox"/> 音声警報・その他()		
表示方法	<input type="checkbox"/> CRT・ <input type="checkbox"/> グラフィックパネル・ <input type="checkbox"/> 窓・その他()		
製造会社名			
監視場所(副監視)(遠隔監視)	① 階 室		
電源	常用電源	AC	V
	非常電源	<input type="checkbox"/> 非常電源専用受電設備・ <input type="checkbox"/> 非常電源(自家発電設備)・ <input type="checkbox"/> 蓄電池設備 DC V All	
消防用設備等	<input type="checkbox"/> 屋内消火栓設備	<input type="checkbox"/> スプリンクラー設備	<input type="checkbox"/> 水噴霧消火設備
	<input type="checkbox"/> 泡消火設備	<input type="checkbox"/> 不活性ガス消火設備	<input type="checkbox"/> ハロゲン化物消火設備
	<input type="checkbox"/> 粉末消火設備	<input type="checkbox"/> 屋外消火栓設備	<input type="checkbox"/> 自動火災報知設備
	<input type="checkbox"/> ガス漏れ火災警報設備	<input type="checkbox"/> 非常警報設備(放送設備に限る。)	<input type="checkbox"/> 誘導灯
	<input type="checkbox"/> 排煙設備	<input type="checkbox"/> 連結散水設備	<input type="checkbox"/> 連結送水管
	<input type="checkbox"/> 非常コンセント設備	<input type="checkbox"/> 無線通信補助設備	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
避難設備・建築設備等	<input type="checkbox"/> 排煙設備	<input type="checkbox"/> 非常用の照明設備	<input type="checkbox"/> 機械換気
	<input type="checkbox"/> 空気調和	<input type="checkbox"/> 非常用エレベーター	<input type="checkbox"/> 防火区画(構成機器設備)
	<input type="checkbox"/> 防煙区画(構成機器設備)	<input type="checkbox"/> 非常錠設備	<input type="checkbox"/> ITV設備
	<input type="checkbox"/> ガス緊急遮断弁	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
工事者区分 ②	電源工事		
	配線工事		
	配線工事		
	機器の取付工事		
	機器の取付工事		
その他	③		

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
 2 選択肢の併記してある欄は、該当事項の□印内をチェックすること。
 3 工事者区分欄には、設備会社名等を記入すること。

- ① 本体の設置場所を具体的に記入する。
- ② 火災報知システム専門技術者証の記載事項を記入する。
- ③ その他の特記事項を記入する。

避難器具の概要表

防火対象物の概要								
名称	①			所在地	②			
用途	③			階数(階層)	地上	階地下	階塔屋 階	
主要構造部	耐火構造④準耐火構造・その他()				延べ面積	m ²		
避難器具の概要								
階別	床面積	用途	収容人員	無窓該当	階段の数	減免数	設置数	避難器具の種別(個数)
		⑤	⑥	⑦				は⑧)・袋()・緩()
								は()・袋()・緩()
								は()・袋()・緩()
								は()・袋()・緩()
								は()・袋()・緩()
								は()・袋()・緩()
								は()・袋()・緩()
								は()・袋()・緩()
								は()・袋()・緩()
避難器具の種別								
型式番号	第⑨)～号	第～号	第～号	第～号	第～号			
設置場所の状況 (用途、構造等)	⑩							
開口部の大きさ 縦×横(m)	×		×		×		×	
腰高(m)								
操作面積(m ²)								
固定位置	⑪							
固定方法	⑫							
固定部材にかかる 設計荷重(kN)	⑬							
固定部材の許容 応力(kN)	⑭							
その他	⑮							

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
 2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。
 3 避難器具の種別(個数)欄は、「は」は金属製避難はしご、「袋」は救助袋、「緩」は緩降機を表し、避難器具の種別の後の()内にそれぞれの種別ごとの設置個数を記載すること。

- ① 当該防火対象物の名称(決定していない場合は、仮称でもよい。)を記入する。
- ② 当該防火対象物の所在地を記入する。
- ③ 令別表第1の該当する用途を記入する。…(例) (3)項口
- ④ 該当するものを○で囲み、その他の()内は建基法上の構造を記入する。
- ⑤ 各階の用途(複数の用途が混在する場合は主用途)を記入する。
- ⑥ 規則第1条の3により、算出した人員若しくは現収容人員(従業員数等)を記入する。
- ⑦ 無窓階の有無を記入する。
- ⑧ は・袋・緩以外の器具は、横線を引き該当器具の例により記入する。…
(例) ~~台~~ 台

避難器具の略称例：滑り台は「台」、避難用タラップは「タ」、避

難橋は「橋」、滑り棒は「棒」、避難ロープは「ロ」

- ⑨ 当該器具の検定、認定の型式番号を記入する。…（例）たい～078号，降第6～1号，は第6～4号
- ⑩ 設置場所の用途，構造を記入する。…（例）ベランダ，鉄筋コンクリート
- ⑪ 固定位置（柱，床，はり，壁等）を記入する。
- ⑫ ボルト締め，溶接等を記入する。
- ⑬ 避難器具の取付け具及び同固定部を設計する際の基本荷重を記入する。
- ⑭ 固定部材（鋼材等）の許容応力度を記入する。
- ⑮ 減免の根拠規定その他の特記事項を記入する。…（例）規則第26条第2項

誘導灯概要表

防火対象物規模	構造		階数		建築面積				用途				
	耐火	② 火火他	地上	③ 階	④ 延べ面積		⑤ 階		⑥ 無窓階の有無				
					⑤ 延べ面積		⑤ 階		⑦ 有 () 階・無				
種別	用途		階	階	階	階	階	階	階	階	階	階	階
避難口誘導灯	A 級												
	B 級	円形											
		直形											
C 級													
通路誘導灯	A 級												
	B 級	円形											
		直形											
C 級													
階段通路誘導灯													
客席誘導灯													
点灯方式			<input type="checkbox"/> 常時点灯 <input type="checkbox"/> 消灯方式										
消灯条件			<input type="checkbox"/> 自動火災報知設備連動 <input type="checkbox"/> 照明器具連動 <input type="checkbox"/> 旋錠連動										
機能			<input type="checkbox"/> 点滅・誘導音機能 () <input type="checkbox"/> 点滅機能のみ () <input type="checkbox"/> 誘導音機能のみ ()										
電源			<input type="checkbox"/> ⑪ 常用電源 AC V 専用・兼用 () <input type="checkbox"/> 非常電源 <input type="checkbox"/> 蓄電池 (内蔵型・別置型) <input type="checkbox"/> 自家発電設備 <input type="checkbox"/> 燃料電池設備										
配線	施工方法		使用電線				太さ						
	常用電源線												
	非常電源線												
設計、施工業者氏名													
⑬													
備考													
⑭													

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲む又は□印内をチェックすること。

- ①～⑥ 動力消防ポンプ設備概要表に準ずる。
- ⑦ 無窓階の有無を記入し、有の場合は該当する階を記入する。
- ⑧ 各階の用途及び設置する誘導灯の個数を該当する欄に記入する。既設は () 書きで記入する。
- ⑨ 各項目の該当するものの□内に✓をすること。
- ⑩ 各項目の該当するものの□内に✓をすること。また、 () 内には該当する内容を記入すること。
- ⑪ 常用電源の電圧及び専用か兼用かを○で囲み、兼用であれば兼用する設備を記入する。非常電源は、各項目の該当するものの□内に✓をすること。
- ⑫ 配線は施工方法、使用電線及び使用電線の太さを記入する。
- ⑬⑭ 動力消防ポンプ設備概要表⑩⑪に準ずる。

消防用水概要表

防火対象物	構造		階数		建築面積		敷地面積	
	耐①火	準耐火	地上階		③	㎡	⑤	
			②				④	㎡
棟別	その他	地下階						
概要	棟別	棟別	1	2	3	4		
	構造							
	建築物の高さ		m		m		m	m
	1、2階の床面積の合計	⑦	㎡		㎡		㎡	㎡
	延べ面積(地階は除く)		㎡		㎡		㎡	㎡
延焼のおそれのある部分に該当する棟								
採水口の配管等	採水口の設置位置 ⑧							
	車両進入状況 ⑨: 水口まで進入可能な位置 m							
	採水口前面空地 ⑩: m × m							
	採水口の型式 ⑪: 1. 吸管投入型 2. 吸管結合型							
	吸管投入口の大きさ及び数 ⑫: 直径 m ヶ所							
	吸管結合金具の寸法数 ⑬: 灯野式 口径 mm ヶ所							
水源	配管の材質、寸法 ⑭: JIS 口径 mm							
	種類 ⑮: 1. 地下式 2. 半地下式 3. 据置式 4. その他 ()							
	貯水容量 ⑯: ㎡ 専用・兼用 ()							
実揚程	有効水量 ⑰: ㎡ ヶ所							
	フート弁から採水口までの配管口径等 ⑱: mm 長さ m							
	配管の摩擦損失水頭 ⑲: 単位 m							
加圧ポンプ	高さ(水槽の下端から採水口まで垂直距離) ⑳: 単位 m							
	起動装置	電圧	使用配線	操作方式	位置			
		⑳	V			地盤面からの高さ m		
起動表示灯	電圧	使用配線	灯の内径					
	V		mm					
別添加圧送水装置概要参照								
設計、施工業者氏名								
㉑								
備考								
㉒								

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

- ① 建基法上の該当する構造を○で囲む。ただし、複数の棟を有し、構造が異なる場合は、その他の欄を○で囲む。
- ② 建基法上の階数を記入する。ただし、複数の棟を有し、階数が異なる場合は、最高の階高の棟を記入する。
- ③～⑤ 複数の棟を有している場合は、最大の棟について記入する。
- ⑥ 同一敷地内の棟の総数を記入する。
- ⑦ 同一敷地内で「延焼のおそれのある部分」に該当する棟がある場合は、その棟について記入する。
- ⑧ 設置位置を記入する。
- ⑨⑩ 消防車両が進入可能な位置から採水口までの距離及び採水口附近の操作空地(空間)を記入する。
- ⑪ 該当するものを○で囲む。
- ⑫～⑭ 設置する吸管投入口の大きさ、吸管・配管の口径及びその設置個数を

記入する。

- ⑮ 該当するものを○で囲み、その他は（ ）内に記入する。
- ⑯ 兼用する場合は（ ）内にその設備名を記入する。
- ⑰ 有効水量とは常時消防用水として使用できる水量をいう。
- ⑱～⑳ 吸管結合金具を使用する場合は、フート弁から採水口までの配管口径、長さ及び弁類等の摩擦損失水頭、落差を記入する。
- ㉑ 加圧ポンプを用いる場合のみ、電圧・電流の定格値、配線の使用電線、地盤面（床面）からの高さ及び操作方式を記入する。
- ㉒㉓ 動力消防ポンプ設備概要表⑯⑰に準ずる。

加 圧 送 水 装 置 概 要 表

加圧送水装置を用いる設備		① 消防用水 連結散水設備 連結送水管			
加圧送水装置の種類		②			
加 圧 送 水 装 置 ⑤	位置	③		認定番号 ④	
	型式 (種別)			原	型式
	口径	mm		⑥	電流
	揚程	m		機	電圧
	吐出量	l/min			出力
					Kw
項 目		型 式 等		寸 法 容 量 等	
ボ ン プ 附 属 設 備	呼 水 槽	材質 ⑦			たて ×よこ ×高さ (cm)
		減水警報装置 ⑧	方式		
		警報移報場所 ⑨			
	フレキシブル管	公称水圧試験圧力 ⑩	MPa	内径	長さ
	性能試験用配管	⑪	方式	内径	
	補給水管	⑫	方式	内径	
	呼水 管			内径 ⑬	
	オーバーフロー管			内径	
逃し 管			内径		
水 源	設置場所	⑭	種 別	地下式・掘置式 その他 ()	
	有効水量	⑮	m ³		
	補給方法	⑯	式	兼用設備	無・有 (⑰)
	減水警報装置	⑱	方式	警報設置場所	⑲
非 常 電 源	非常電源の種類 ⑳ 専用受電設備(高圧・低圧)・自家発電設備・蓄電池設備・燃料電池設備				
	非常電源の型式等	認定番号	非常電源容量	設置場所	
	㉑		KVA(AH)		
設計、施工業者氏名					
㉒					
備考					
㉓					

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

- ① 該当するものを○で囲む。
- ②③ 加圧送水装置の種類及び位置を記入する。
- ④ 認定番号を記入する。なお、()書きでユニット、単体の別を記入すること。
- ⑤⑥ ポンプ及び電動機の型式並びに吐出量等を記入する。
- ⑦ 材質及び容量等を記入する。
- ⑧⑨ 減水警報装置の方式及び警報装置移報場所を記入する。
- ⑩ 水圧試験圧力、内径及び長さを記入する。
- ⑪⑫ 方式(性能試験用配管は直読式又は差圧式の別、補給水管は自動式又は手動式の別をいう。)を記入する。
- ⑬ 内径は、管の呼び径を記入する。……………(例) 50mm
- ⑭ 水源の位置を記入し、その水源の種別を○で囲むか又は記入する。
- ⑮ 有効水量を記入する。

- ⑩ 自動式又は手動式の別を記入する。
- ⑪ 水源の兼用設備の有無で該当するものを○で囲み，兼用するものは兼用設備名を記入する。
- ⑬⑭ 減水警報装置の方式及び警報装置の設置場所を記入する。
- ⑮ 該当するものを○で囲む。
- ⑯ 型式，認定番号，容量及び設置場所を記入する。
- ⑳㉑ 動力消防ポンプ設備概要表⑩⑪に準ずる。

連結散水設備概要表

(棟別 ① 棟)

防対象 火物要	構造		階数		用途		
	② 前準 モ	② 火 火 火 他	地上 ③ 階	地下 ③ 階	④ nd	⑤ nd	⑥
設置 状 況	階別		地下1階	地下2階	地下3階	地下4階	
	床面積		nd	nd	nd	nd	
	送水区域数		⑦				
	1送水区域内で2以上防火区画		有・無	有・無	有・無	有・無	
散水ヘッド個数		個					
ヘッドを省略する部分	階	用途	床面積	防火戸の種別・開口部面積	内装材料	代替設備	
			nd	ヶ所 nd			
		⑧	nd	ヶ所 nd			
ヘッド・制御弁等	項目	仕様	項目	仕様			
	ヘッドの型式 ⑨	開放型・閉鎖型	ヘッドの間隔 ⑩	m×	m		
	ヘッドの溶解温度	摄氏 ⑪ 度	ヘッド水平警戒距離	半径 ⑫	m		
	起動方式	手 ⑬ 自動	開放弁の個数	⑭	ヶ所		
	起動装置	⑮	制御弁の個数	⑯	ヶ所		
	自動警報装置	⑰ 種別	ヶ所	最大警戒面積	nd		
	表示装置	⑱	排水弁	位置	⑲	ヶ所	
配管等	最大圧力	⑳ MPa					
	配管 ㉑	JIS	硬水管 主管 配水管	mm	JIS	水圧試験圧力 MPa	
	管 継 ㉒	JIS	フランジ・おじ込み・溶接 その他()	mm	JIS	水圧試験圧力 MPa	
	仕 切 ㉓	JIS			JIS	水圧試験圧力 MPa	
	定 止 ㉔	JIS			JIS	水圧試験圧力 MPa	
	送 水 ㉕	位置	双口型	個	増込・スタンド式	口径 mm	高さ m
加 圧 送 水 装 ㉖ 新加圧送水装置概要表参照							
全揚程	ヘッドの設計圧力換算水頭		㉗	単位	m		
	配管の摩擦損失水頭		㉘	単位	m		
設計、施工業者氏名 ㉙							
備考 ㉚							

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

- ①～⑥ 動力消防ポンプ設備概要表に準ずる。
- ⑦ 各階の床面積、送水区域数及び設置ヘッド個数を記入し、1送水区域内に2以上の防火区画の有無で該当するものを○で囲む。
- ⑧ 連結散水設備の基準3(3)（スプリンクラー設備の基準II 4(2)に該当する部分を含む。）によりヘッドを省略した部分の用途（名称）及び当該床面積を記入し、代替区画に用いる特定防火設備である防火戸又は防火戸の別、開口部面積（防火戸等の設置してある部分の面積の合計をいう。）及び内装材料（下地共）を記入する。代替設備を設ける場合はその設備名を記入する。
- ⑨ 該当するものを○で囲む。
- ⑩～⑫ ヘッド間隔、標示温度及び1個のヘッドの水平警戒距離を記入する。
- ⑬⑮ 起動方式は開放型の場合のみ記入し、⑮の起動装置は感知器、スプリンクラーヘッドの別を記入する。
- ⑭⑯ 開放弁、制御弁の設置個数を記入する。なお、閉鎖型の場合は⑭の欄は

無記入とする。

- ⑰ 自動警報装置の種別，最大警戒面積を記入し，設置箇所は防火対象物全体の設置個数を記入する。
- ⑱ 自動火災報知設備の受信機又は総合操作盤の位置を記入する。
- ⑲ 位置及び設置箇所を記入する。
- ⑳ 配管にかかる最大圧力を記入する。
- ㉑～㉔ 使用する配管のJIS番号と水圧試験圧力を記入し，吸水管，主管，配水管（横引き管等をいう。）の口径を記入する。管継手は該当するものを○で囲む。
- ㉕ 設置数，配管口径及び地盤面からの高さを記入し，埋込みかスタンド式か該当するものを○で囲む。
- ㉖ 加圧送水装置概要表を添付する。
- ㉗㉘ 設計圧力，ヘッド，配管の摩擦損失計算等を行い，それらの結果を記入し，その計算書を添付する。
- ㉙㉚ 動力消防ポンプ設備概要表⑰⑱に準ずる。

連結送水管・非常コンセント設備概要表

(棟別) ① 棟

防火対象規模	構造	階数		連絡面積		用途								
	耐火の 基準 その他	地上	地下	階		面積		階						
設置状況	階数	個数	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個
	放水口 位置 床面より	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m
格納箱	放水口格納箱	材質	板厚	寸法(高さ)		寸法(幅)		寸法(奥行)						
	放水用具等	材質	板厚	寸法(高さ)		寸法(幅)		寸法(奥行)		ホースの材質 m 本 噴霧切替ノズル 本				
配管・ホース等	最大圧力	MPa												
	項目	材質等	口径等		その他									
	主 管	JIS	口径		JIS 水圧試験圧力 MPa									
		立主管	型式	乾式	高架水槽 専用・兼用 () 設備									
	放水口	口径	型式		個数 単口形 個・双口形 個									
	送水口	口径	型式		設置場所へ スタンド式・埋込式 GLからの高さ									
	管継手	フランジ・ねじこみ・溶接 その他 ()	口径		JIS 水圧試験圧力 MPa									
	仕切り弁	口径	型式		JIS 水圧試験圧力 MPa									
	逆止弁	口径	型式		JIS 水圧試験圧力 MPa									
	表示灯	電圧 V	配線		設置位置									
	電流 mA	灯の内径		mm										
加圧送水管 ⑩ 加圧送水管設備概要表参照														
非常コンセント設備	階別設置個数	1.1階	1.2階	1.3階	1.4階	1.5階	1.6階	1.7階	1.8階	1.9階	2.0階			
	電圧・電流	相交流		V	A	回路		規格	JIS-					
	保護管	寸法	m×	m	表示灯	電圧	V	設置位置						
		材質	板厚	mm	電流	mA	灯の内径							
		mm												
	配線及び 施工方法	⑪												
	非常電源	専用発電設備(高圧・低圧)・自家発電設備・蓄電池設備・燃料電池設備												
設計、施工業者氏名														
⑫														
備考														
⑬														

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

- ①～⑥ 動力消防ポンプ設備概要表に準ずる。
- ⑦ 各階の設置個数と床面から放水口までの高さを記入する。ただし、既設の放水口は () 書きで記入する。
- ⑧ 放水口格納箱の材質、板厚及び大きさを記入する。
- ⑨ ⑧に準ずるほか、ノズル、ホースの設置本数及びホースの長さを記入する。ただし、設置しない場合は空欄とする。
- ⑩ 配管にかかる最大圧力を記入する。
- ⑪ 配管のJIS番号、口径及び公称圧力を記入し、湿式・乾式の別、湿式の場合は高架水槽の専用・兼用の別で該当するものを○で囲み、その容量を記入するとともに兼用する場合は、その設備名を () 内に記入する。
- ⑫⑬ 放水口、送水口の口径を記入し、単口形・双口形の別で該当するものを○で囲み、その設置数を記入する。なお、送水口は設置位置及び地盤面か

らの高さを記入し、型式は該当するものを○で囲む。

- ⑭～⑯ 連結散水設備概要表 ～ に準ずる。
- ⑰ 表示灯の位置、内径、電圧値、電流値及び配線の使用電線を記入する。
- ⑱ 加圧送水装置概要表を添付する。
- ⑲ 各種の設置個数を記入する。ただし、既設のものは（ ）書きで記入する。
- ⑳ 電圧、電流値、回路数及び非常コンセントのJIS番号を記入する。
- ㉑ 保護箱は大きさ、材質、板厚を、表示灯は電圧、電流値を、灯はその内径及び設置位置を記入する。
- ㉒ 回路の使用電線及び施工方法を記入し、非常電源は該当するものを○で囲む。
- ㉓㉔ 動力消防ポンプ設備概要表⑯⑰に準ずる。

無線通信補助設備概要表

防火対象物規模	用途	①	階数	階	延べ面積	m ²
使用区分	専用・共用（警察用・防災管理用・その他（②））					
設備方式	漏洩同軸ケーブル方法・漏洩同軸ケーブル及び空中線方式・空中線方式					
使用周波数帯域	MHz					
無線機接続端子	設置場所				設置個数	個
	許容入力（設計値）	w(連続)	保護箱 (cm)	() × () × ()		
増幅器	設置の有無	型名	利得	設置場所		
			dB			
混合分配器	型名	入力端子数	挿入損失	設置場所		
			dB			
混合器	型名	入力端子数	挿入損失	設置場所		
			dB			
分配器	型名	設置個数	挿入損失	設置場所		
			dB			
分波器	型名	設置個数	挿入損失	設置場所		
			dB			
空中線	型名	設置個数	利得	電圧定在波比		
			dB	()MHzにて()		
漏洩同軸ケーブル	型名	結合損失	伝送損失	使用長	耐熱措置方法	
		③ dB	④ dB/km	m		
同軸ケーブル	型名	伝送損失	使用長	耐熱措置方法		
		⑤ dB/km	m			
製造者名	漏洩同軸ケーブル					
	空中線					
	分配器等					
	増幅器					
設計・施工業者氏名	⑥ TEL					
備考	⑦					

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲むこと。

- ① 令別表第1の該当する用途を記入する。
- ② 無線通信補助設備に「その他」の用途を共用する場合、総務大臣は所轄総合通信局長が認める他の用途を記入する。
- ③④ 結合損失、伝送損失それぞれの標準値を記入する。
- ⑤ 伝送損失の標準値を記入する。
- ⑥⑦ 動力消防ポンプ設備概要表⑩⑪に準ずる。

排煙設備概要表

(棟別) ① 棟

防火対象物 規模	構造	階数	建築面積	用途
	② 耐火 構造 その他	地上 階 地下 ③ 階	④ m^2 延べ面積 ⑤ m^2	
方式 <input type="checkbox"/> 自然 ⑧ <input type="checkbox"/> 機械 (<input type="checkbox"/> 吸引排煙 ・ <input type="checkbox"/> 加圧排煙)				
項 目				
排煙機	設置位置	⑨ 階 窓		
	機械室の構造	壁	<input type="checkbox"/> 耐火 <input type="checkbox"/> 不燃 <input type="checkbox"/> その他 ()	
		天井	<input type="checkbox"/> 耐火 <input type="checkbox"/> 不燃 <input type="checkbox"/> その他 ()	
		開口部	<input type="checkbox"/> 特定防火設備 <input type="checkbox"/> 防火設備 <input type="checkbox"/> 不燃	
排気量	m^3/min			
給気機	設置位置	階 窓		
	機械室の構造	壁	<input type="checkbox"/> 耐火 <input type="checkbox"/> 不燃 <input type="checkbox"/> その他 ()	
		天井	<input type="checkbox"/> 耐火 <input type="checkbox"/> 不燃 <input type="checkbox"/> その他 ()	
		開口部	<input type="checkbox"/> 特定防火設備 <input type="checkbox"/> 防火設備 <input type="checkbox"/> 不燃	
給気量	m^3/min			
起動装置	自動	<input type="checkbox"/> 自動火災報知設備感知器連動 <input type="checkbox"/> その他 ()		
	手動	<input type="checkbox"/> 手動 <input type="checkbox"/> 遠隔操作		
排煙口等	大きさ	$m \times m$		
	設置位置	<input type="checkbox"/> 天井面 <input type="checkbox"/> 壁面 <input type="checkbox"/> その他 ()		
	防煙区画の構造等	防煙区画面積 (最大)	m^2	
風道	風道構造	<input type="checkbox"/> 耐火 <input type="checkbox"/> 不燃 <input type="checkbox"/> その他 ()		
	区画ダンパー	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()		
排煙出口	<input type="checkbox"/> 屋上 <input type="checkbox"/> その他 ()			
給気口	給気方法	<input type="checkbox"/> 自然流入 <input type="checkbox"/> 給気機 <input type="checkbox"/> その他 ()		
	風道構造	<input type="checkbox"/> 耐火 <input type="checkbox"/> 不燃 <input type="checkbox"/> その他 ()		
電源	常用電源	AC V		
	非常電源	<input type="checkbox"/> 非常電源専用受電設備 <input type="checkbox"/> 自家発電設備 <input type="checkbox"/> 蓄電池設備 <input type="checkbox"/> 燃料電池設備		
設計、施工業者氏名 ⑩				
備考 ⑪				

備考 1 この用紙の大きさは、日本建築規格 A4 とすること。
2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○印で囲む又は□印内をチェックすること。

- ①～⑥ 動力消防ポンプ設備概要表に準ずる。
- ⑦ 消防用設備等 (特殊消防用設備) 計画書⑭に準ずる
- ⑧ 各項目の該当するものの□内に✓をすること。また、() 内には該当する内容を記入すること。
- ⑨⑩ 動力消防ポンプ設備概要表⑯⑰に準ずる。

パッケージ型消火設備の概要表

種 別	① I型×()台・II型×()台									
認 定 番 号	号	型式記号								
消火薬剤貯蔵容器等	加圧・蓄圧 (MPa)	材質		内容積	L× 本					
消火薬剤	種 別			型式番号						
	貯 蔵 量	② (1台あたり) L× 本= L								
加 圧 用 ガ ス	ガスの種別	窒素・二酸化炭素								
	充 填 量	(1台あたり) m ³ ・L・kg × 本			充填圧力	MPa				
ホース等	材 質				ノズル切替有無	有・無				
	寸 法	長さ m (I型・II型)								
	ホース収納方式	リール収納方式 ・ ホース架収納方式								
設 置 場 所	設 置 階									
	台 数									
電 源	常用電源回路	単相・三相 AC V 電灯回路・動力回路								
		DC	V	AH	充電方式：トリクル・浮動 使用別：専用・共同					
	非常電源回路	種別 ()		充電方式：トリクル・浮動 使用別：専用・共同						
		DC	V	AH						
配 線	表示灯回路	露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他 ()								
	非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線管理設・その他 ()								
放 射 性	放 射 率	L/min								
	放 射 距 離	m								
	全量放射時間	秒								
備 考										

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○で囲むこと。

- ① I型、II型ごとにすべての設置台数を記入する。
- ② 消火薬剤の種別を記入すること。
(例) 強化液、第1種機械泡、第2種浸潤剤等入り水
種別が違う消火薬剤の設備を設置する場合は、備考欄に内訳を記入すること。

パッケージ型自動消火設備の概要表

認定番号・設置台数		認定型式番号		号×台	型式記号		内容積		L×本	
消火薬剤貯蔵容器等		加圧・蓄圧 (MPa)	材質							
消火薬剤	種別	①			型式番号					
	薬剤量	容器別数量	L×容器本数	本	L×容器本数	本	L×容器本数	本	L×容器本数	本
			L×容器本数	本	L×容器本数	本	L×容器本数	本	L×容器本数	本
			L×容器本数	本	L×容器本数	本	L×容器本数	本	L×容器本数	本
			L×容器本数	本	L×容器本数	本	L×容器本数	本	L×容器本数	本
						=総量			L	
加圧用ガス		ガスの種別	窒素・二酸化炭素							
本体設置状況		薬剤貯蔵容器等	②			接地端子		有・無		
感知部	感知器の種別	式 型 ()	型式番号: 感第		号×	種	個			
		③ 式 型 ()	型式番号: 感第		号×	種	個			
		式 型 ()	型式番号: 感第		号×	種	個			
		式 型 ()	型式番号: 感第		号×	種	個			
検出方式		④								
音響装置		音声・サイレン・音声+サイレン・ブザー・その他 ()				連動有無		有 () 無		
手動起動方式		⑤								
放出導管		主管 材質:	呼び方:		分岐管 材質:					
放出口		最大長さ		m						
補助散水栓		屋内消火栓 (1号・2号・易操作1号) × 台		I型 × 台	II型 × 台					
電源	常用電源回路	単相・三相 AC V	電灯回路・動力回路							
	非常電源回路	種別 (DC V AH)	充電方式: トリクル・浮動		使用別: 専用・共同					
配線	常用電源回路	露出ケーブル・電線管露出・電線管埋設・その他 ()								
	非常電源回路	耐火電線・電線管露出・電線管埋設・その他 ()								
	警報回路	耐熱電線・電線管露出・電線管埋設・その他 ()								
	その他の回路	IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管埋設・その他 ()								
階	階面積	主な用途	同時放射区域	最大同時放射区域面積	放出口数	備考				
階	m ²		区域	m ²	個					
階	m ²		区域	m ²	個					
階	m ²		区域	m ²	個					
階	m ²		区域	m ²	個					
階	m ²		区域	m ²	個					
階	m ²		区域	m ²	個					
階	m ²		区域	m ²	個					
階	m ²		区域	m ²	個					
合計			区域		個					
備考										

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○で囲むこと。

- ① パッケージ型消火設備の概要表②に準じて記入すること。
- ② 設置場所を記入すること。
- ③ 感知器の種別を記入すること。
(例) 光電式スポット型, 差動式スポット型
- ④ 煙式と熱式の併用
- ⑤ 手動で作動することができる装置を設ける場合にあつては、記入すること。